

The 38th

TOKYO MOTOR SHOW

Commercial & Barrier-free Vehicles

2004



News vol.5

平成16年11月7日

第38回 東京モーターショー2004 ◎ 働くくるま福祉車両

薄曇りのち晴れ、6日(土)は週末とあって、幅広い層の来場者が訪れていたが女性が増えているのが目立つ。また今回は高齢者、障害者の来場も多く西ホールのウェルフェアパークは連日賑わい、試乗コーナーでの車いすやシニアカーはフル回転。相談窓口も一日平均30数人訪れるが、とくに女性が多い。

「新生ふそう」へ、品質と安全への取り組みをパネルで紹介

三菱ふそうトラック・バス

「信頼される“ふそうブランド”の再構築に向けて、全社一丸となり最大限の努力をしていきます」――。プレスリリースでヴィルフリート・ポート社長はこう力説した。今回のショーを「新生ふそう」へと動き出す第一歩と捉えている。

東ホールにある展示ブースは、次世代の安全性、快適性、環境調和、経済性などの先進技術を備えた新たな輸送スタイルを提案するコンセプトカーの「FUSO CONCEPT」をはじめ、平成17年(新長期)排ガス規制対応の次世代クリーンディーゼルエンジンを搭載した低床軽量大型トラック「スーパーグレート ハイルーフダンプ」。それに環境にやさしい低公害と低燃費性能を追求したハイブリッド電気自動車の小型トラック「キャンター HEV」の3台を出品している。

また、ブース内では開発中の新型エンジンの試作モデルなどを展示した技術コー

ナーのほかに、パネル展示スペースを設けており、大型ビデオ画像で品質と安全への取り組み、透明性を重視する企業文化改革への取り組みなどについて、一般の来場者にもわかりやすく紹介している。



▲“輸送スタイルの革新”を提案した「FUSO CONCEPT」

◀ 品質・安全などへの取り組みを紹介するパネル展示コーナー

移動する便利さ・快適さをサポート

三菱自動車工業

東ホールにある三菱自動車の展示ブースは三菱ふそうとデザインを統一。ホワイトボードに赤のスリーダイヤがくっきりと浮かんで、明るい雰囲気スペースを演出している。

今回のショーでは同乗試乗会用(1台)を含む5台の福祉車両を出品。三菱では「クルマを使って移動する便利さ・快適さを、より多くの人に提供したい」という発想で10年以上前から「ハーティラン」シリーズの名称で、福祉車両の開

発に取り組んでいる。

このうち、「タウンボックス」の車いす仕様車は、車両後部に収納された折りたたみ式のスロープを引き出して乗り降りするニールダウン方式を採用。車いすに乗ったままの車内への乗り降りを可能としている。「グランディス」の助手席ムービングシート仕様車は、助手席シートがスイッチ操作により電動で回転し、さらに車外へスライドダウンすることで、シートと地面との距離を縮め、乗り降りを楽にする。このほか、車いす使用者が運転できるようにサポートする「ランサー」のセルフトランスポート仕様車を展示している。



◀ 福祉車両を展示している三菱のブース

▶ ニールダウン方式の「タウンボックス」の車いす仕様車





▲商用車コーナーはアクティシリーズなどの市販車を展示

西ホール中央のホンダのブースは、展示コーナーを「コンセプトカーゾーン」のほか、「ドライビングシミュレーター」、「先進のホンダディーラー」「インターナビ」それに「市販車」のコーナーに分けてアピールしている。

出品車12台のうち商用車は6台。展示テーマは「ひとり一人がいきいきと」。福祉車両同様に商用車でもひとり一人の個性を大切にする「人間尊重」の考えに基づいた2台のコンセプトカーを展示している。

仕事をスタイリッシュに楽しむピックアップバンの「P.V」



▲スタイリッシュなピックアップバンの「P.V」

は商用車の機能性に、楽しいアイデアと斬新なデザインを兼ね備えている。新発想のこだわりの“働くくるま”である。また、とことんホビーライフを楽しむ「HOBICK」はユニークな小型トラックだ。荷台とキャビンのバランスが普通の軽トラックとは違い、キャビンのサイズがひと回り大きいのが特徴。乗車定員は2名だが、シートも中型車並みの大きさで長距離走行にも最適。

商用車も「人間尊重」のホンダらしいものづくりを追求している。

トピックス TOPICS 国際色豊かなフードコート 働くくるまのトラックマルシェ

西ホール、中央ホール間の「やすらぎのモール」では、フードコート「働くくるまのトラックマルシェ」が人気を呼んでいる。厨房を架装したトラックを使った各国料理の屋台が軒を連ねている。アフリカ料理店「ミジャメ」のベアトリスさんは、アフリカ・ギニア湾岸のガーナから来日して10年目。アフリカ料理はなかなか好評だという。「一番人気はアフリカの香辛料で味付けしたジョロライスです。香り付けのガーナスパイスも好評ですね」。マルシェにはミジャメのほか、インド料理の「マハッタ」、タイ料理の「サワディー」、イタリア料理の「ファンキー」、アメリカ料理の「ルウ・ジャパン」、パキスタン料理の「マルハバ」が営業。昼時ともなると、来場者が列をなして料理を買って求めている。



ミニカーの“ミニ工場”を建設 トミカコーナー

ミニカーの販売が行われている西ホールのトミカコーナーには、子供たちのみならず、ミニカーを懐かしがる大人やミニカー愛好家など、多くの人が大挙して訪れている。とくに人気が高いのは、ミニカー工場の最終工程を模したミニファクトリー。ミニカーをカスタマイズして、自分好みのモデルに仕立てられるということで、ベ

ースモデルを手にした人が列をなしていた。最後の仕上げの後、検査のためのミニ道路を走らせ、「ハイ合格です」と商品を引き渡された子供たちは、喜びで一様にえびす顔だった。



子供たちが殺到。 はたらくくるまの絵本展

自工会が子供向けに企画した「はたらくくるまの絵本展」が連日盛況だ。ブースにはさまざまな“はたらくくるま”の絵本が並べられ、訪れた多くの幼児が絵本に描かれたクルマに夢中になっていた。

「とくに人気なのは、立体絵本や動く仕掛けがある絵本ですね。絵本好きな子供は何冊でも見続けますよ」（ブースの係員）。開幕から子供たちに読み回された絵本のなかには、すでにボロボロになったものもあるほどの人気ぶり。整理整頓については、「お片づけがきちんとできる子供が多いのに驚きました。むしろ大人のほうが散らかしっぱなしの傾向がありますね（笑い）」（係員）



レイフ・ヨハンソンCEOが「最先端の技術を駆使した実用車両を提供することが、ボルボの情熱です」と話すボルボのテーマは「SAFETY = VOLVO TRUCKS」。テーマに示した安全性へのこだわりを実感してもらうために、様々なアトラクションを企画している。

とくにシートベルトの有効性とドライビングポジションの維持が実物大キャビンで70度まで傾けても実感できるシミュレーター試乗会は超人気で、大人に限らず課外授業の子供達も連日、大はしゃぎしながら長蛇の列を作っている。

実際にトラックが道路上を横転していく迫力映像にも人垣。



新短期排ガス規制対応の「アクトロス」3モデルを参考出品

ダイムラー・クライスラー

商用車におけるメルセデス・ベンツの長年の安全思想と最先端テクノロジーをグラフィックや映像で紹介するとともに、参考出品の大型トラック「メルセデス・ベンツ アクトロス」の3タイプと、スペース効率が高い商用バン「トランスポーターTIN」をベースとしたコミュニティバスを展示している。

なかでも、他のモデルよりキャビンを一段高く設計したアクトロスのメガスペースキャブは、最適なギアを自動選択するテリジェント オートマティック ギアシフトを装備しており、ドライバーに快適な運転環境を提供している。



▲テリジェント・オートマティック・ギアシフト搭載のメガスペースキャブ

介護から自立へ—福祉車両に浸透するバリアフリー思想

障害を持つ人が自立的にクルマで移動できる福祉車両が人気だ。車いす使用者などが自力で乗車できるバス、自分で運転



▲アイシスLアクセスモビリティ

できる乗用車はどうか—多くの出品者がコンセプトカーや技術展示を通じて、バリアフリーの思想をアピールしている。

バリアフリー化の要請が大きいもののひとつに、公共バスがある。トヨタ車体が出品しているレトロバスは、後部に緩やかなスロープを備えており、車いすユーザーが簡単に自力で乗り込める。クセニッツのマイクロバス(路線バス仕様)は道路との段差がゼロになるまでニールダウン(車高低下)でき、車いす使用者が時間をかけずにスムーズに乗り降りすることができる。

乗用車も自立型福祉車両の展示が目立っている。車いす使用者が安全な左ドアから運転席に座ることができ、車いすも簡単に収納できる機構を提案した関東自動車の「アイシスLアクセスモビリティ」をはじめ、多くのアイデアが提起された。

トピックス TOPICS 楽しい企画が盛りだくさんのフェスティバルステージ

中央ホール南休憩ゾーンに設置されたフェスティバルステージでは、大人も子供も楽しめる数々のイベントが連日行われている。



とくに人気が高いのは、昨年の東京モーターショーに引き続いて開催される参加型イベント「トラフィック戦隊アンゼンジャーショー」。

交通安全を守る正義の味方、白いコスチュームで身を包んだアンゼンジャーが舞台に登場。抱腹絶倒のトーク

の数々に観客は爆笑。安全を脅かす敵を倒すと、拍手喝采が沸き起こった。小学生以下を対象とするアンゼンジャー・こどもスタンプラリーも毎日開催され、5カ所のチェックポイントをすべて回った参加者全員に記念品が配られていた。

ステージではこのほか、東京ディズニーリゾートを運営するオリエンタルランドの社会貢献活動「ネポスピロス バスキャラバン」、千葉県警による「腹話術」や地震体験車の展示などが行われている。



いすゞ自動車

下半身障害者でも運転できる
大型トラックを開発・参考出品

福祉車両の出品は3台。とくに下半身に障害を持つドライバーのために開発したバリアフリーのトラック「ギガマックストラックAC(アビリティキャブ)」(参考出品)は、東ホールで高い関心を集めている。

「スムーサーG」といういすゞ独自のトランスミッションにより、クラッチ操作しなくても発進・変速・停止を完全自動化した。

助手席側に乗り降りが楽な電動リフトシステムが装備されて

スズキ

アルト、SWIFT、MRワゴンに
回転スライドシート車を設定

参考出品の福祉車両として新型アルト、SWIFT、MRワゴンの回転スライドシート車3台を出品。いずれも助手席を回転させる機構とシートを外側へスライドさせる機構とを装備し、足腰の不自由な人が乗り降りする際の負担を軽減する。

また、足腰に不安のあるお年寄りらが市街地に外出する際に重宝な新型電動いす「タウンカート」も参考出品し、05年春の販売を予定。



回転スライドシートを
装備した新型アルト

おり、開発にあたって障害者の意見を十分に参考にした。交通事故による下半身障害で免許を返上させられるトラックドライバーが増えており、職場復帰の声が多い。会場ではやはり事故による下半身障害の元バス乗務員が、「バスでもぜひ作ってほしい」と要望する姿も――。

大型トラックのバリアフリーを目指す「ギガマックストラックAC」



スバル

チャーミングな「R1」に自操式装置と
ウイングシートを採用

メインステージで「私は、あなたが好きです」のナレーション映像とともに登場する参考出品の「スバルR1」。

上質なミニカーとして提案するR1にブレーキとアクセル操作を手動でできる自操式装置装着車を出品。介護車両としても座席に電動でシートが回転する「トランスケアウイングシート」や、車いすのまま乗車できる「電動リフター」を出品し、身障者の方が次々に試し乗りする姿が見られた。



▲ワイヤレスリモコン操作が可能な「スバルR1トランスケアウイングシート」

シンポジウム

11月6日(土)14:00~16:30/国際会議室

環境に優しい貨物輸送をめざして

～モーダルシフト等によるトラック輸送の環境負荷低減～

環境省/(独)環境再生保全機構

- コーディネーター
大聖泰弘氏(早稲田大学理工学部教授)
- パネリスト
宮澤幸成氏(日本貨物鉄道取締役運輸車両部長)
遠藤真氏(日野自動車執行役員)
芝田稔子氏(湯浅コンサルティング・コンサルタント)
山口秀和氏(セブン-イレブン・ジャパン環境推進部総括マネージャー)
清水康弘氏(環境省地球温暖化対策課長)

二酸化炭素、NOx、PMなどの有害物質を削減するため、物流界におけるトラックから貨物鉄道へのモーダルシフト、小型ハイブリッドトラック、IT技術の活用などが注目されている。物流の9割を占めるトラック輸送における環境負荷低減はとくに急務である。シンポジウムではまず、大聖泰弘氏が交通運輸の展望などについての基調講演、続いて物流、輸送機器関係者などによるプレゼンテーションが行われた。その後パネルディスカッションに入り、どうすればCO₂削減を実現できるかということについて討論がなされた。



大聖泰弘氏

11月6日(土)14:00~15:30/中会議室201

みんなで考えよう クルマの税金2004
自動車税制改革フォーラム

- コーディネーター・進行アシスタント
御堀直嗣氏(モータージャーナリスト)
小山好子氏(進行アシスタント)
- パネリスト
岡田清氏(日本自動車連盟 理事・JAF税制対策委員会委員長)
テリー伊藤氏(演出家)
宮田佳代子氏(フリーキャスター)

9つもの同じような目的の税金が重なるように取られている割には、地下鉄整備など全体税収の約11%も道路整備以外に使われたりしている――そんな現行自動車税制の矛盾や問題点を個性豊かな5人のパネリストが、読売新聞によるユーザーアンケートの調査結果なども参考にしながら、鋭く検証。

その上で、では理想的な自動車税制はどうあるべきかについて5氏がそれぞれ言及。ユーザーみんなで常にクルマの税金に目を向け、税負担を軽減していくための声を上げていこうということで意見が一致した。



参加・体験型イベントが盛りだくさん!



トラフィック戦隊アンゼンジャー(南休憩ゾーン)
・10:30~10:55 ・12:15~12:40 ・13:30~13:55

シンポジウム 自動車リサイクル法 国際会議室
13:00~15:00

キャンプ・ネボス(南休憩ゾーン)
・11:00~11:25 ・13:00~13:25

「地球温暖化への対応」 中会議室201
15:00~17:00